

7月の都内経済状況







コンサルティング事業部

項目	天気図	コメント
現在の景気動向		7月の都内の景気は、天候要因も加わり弱い動きが続いているものの、緩やかに回復している。百貨店、スーパー、コンビニエンスストアの売上や乗用車販売、住宅着工、輸出は前年を下回った。公共投資は前年を上回った。工業生産は(6月)は前月から低下した。有効求人倍率は前月から低下したが、新規求人数は前年を上回った。
今後の見通し(3ヵ月)		都内の景気は、雇用・所得環境の改善が続いており、緩やかな回復が見込まれるものの、輸出の減少を背景に生産活動に弱さがみられ、通商問題が世界経済に与える影響や中国経済の先行き、為替の動向等が懸念される。
個人消費	百貨店売上高	 百貨店売上高は、前年同月比▲3.4%と9ヵ月連続で前年を下回った(既存店ベース)。梅雨明けの遅れによる低気温と日照不足の影響を受けた。主要5品目の動向をみると、高級時計などが好調な美術・宝飾・貴金属が牽引した雑貨、食料品、家庭用品は前年を上回ったが、夏物が不振だった衣料品、身の回り品が前年を下回った。
	スーパー売上高	 スーパーの売上高は、前年同月比▲6.6%と4ヵ月連続で前年を下回った(既存店ベース)。長雨と低気温で客数が伸びず、衣料品だけでなく主力の食料品、その他も不振だった。
	コンビニ売上(関東)	 関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比▲1.8%と2013年2月以来77ヵ月ぶりで前年を下回った(全店ベース)。梅雨明けが遅く、低気温の影響から夏物商材が不振、行楽需要にも影響した。
	乗用車登録台数	 乗用車販売台数(軽を含む)は、前年同月比▲2.1%と2ヵ月連続で前年を下回った。車種別では、普通車(同0.8%増)は前年を上回ったが、小型車(同▲7.0%)、軽乗用車(同▲0.5%)共に2ヵ月連続で前年を下回った。
住宅建設	 住宅着工戸数は、前年同月比▲16.0%と4ヵ月連続で前年を下回った。利用関係別では、持家(同6.9%増)、給与住宅(155.0%増)は前年を上回ったが、分譲住宅(同▲19.1%)、貸家(同▲19.1%)は前年を下回った。	
公共投資	 公共工事請負金額は、前年同月比34.1%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。発注者別では、独立行政法人(同280.8%増)、市区町村(同72.3%増)が増加したが、国(同▲35.0%)、東京都(同▲7.4%)、地方公社(同▲37.1%)が減少した。	
貿易(東京税関管内)	 東京税関管内の輸出額は前年同月比▲7.2%と、9ヵ月連続で前年を下回った。主要地域別では、アメリカ向け(同5.0%増)は11ヵ月連続で前年を上回ったが、EU向け(同▲8.9%)が2ヵ月ぶり、アジア向け(同▲12.6%)が9ヵ月連続で減少している。	
設備投資(法人企業)	 財務省「法人企業統計調査」によると、全国の法人企業(資本金1千万円以上、金融・保険を除く)の4~6月期設備投資額(土地購入を除く)は、全産業が前年同期比1.9%増、製造業が同▲6.9%、非製造業が同7.0%増となった。	
企業収益(法人企業)	 同上調査によると、全国の法人企業(同上)の4~6月期経常利益は、全産業が前年同期比▲12.0%、製造業が同▲27.9%、非製造業が同▲1.5%と、いずれも減少した。	
労働需給	 有効求人倍率(季調値)は2.09倍と前月から0.04ポイント低下した。先行指標とされる新規求人数は前年同月比2.3%増と前年を上回った。南関東の完全失業率は2.3%で、前月と変わらず。	
企業倒産	 企業倒産件数は前年同月比13.7%増と2ヵ月連続で前年を上回ったが、負債総額は同▲29.5%と3ヵ月連続で前年を下回った。1~7月累計の倒産件数を業種別に見ると、教育学習支援業、医療・福祉(同40.9%増)、宿泊業・飲食サービス業(同23.1%増)などは増加したが、製造業(同▲23.8%)、運輸業・郵便業(同▲18.8%)などが減少している。	
資金需要(銀行)	 銀行の都内向け貸出残高は前年同月比2.7%増と95ヵ月連続で前年を上回り、増加幅は前月から0.2ポイント縮小した。	

工業生産指数(季調値) ()は前年同月比%	工業在庫指数(季調値) ()は前年同月比%	消費者物価指数 ()は前年同月比%	(一〇メモ) 東京都最低賃金1,013円に引き上げ 東京労働局長は、東京地方最低賃金審議会の答申を受け、最低賃金を現行の時間額985円を28円引き上げて、1,013円にすることを決定しました。効力発生日は、10月1日となります。東京労働局では、最低賃金制度の周知と中小企業等への支援施策を推進するとしています。
4月 96.1 (4.5)	4月 113.9 (19.1)	5月 101.6 (1.1)	
5月 92.8 (▲3.3)	5月 106.8 (9.5)	6月 101.6 (1.1)	
6月 91.0 (▲4.0)	6月 99.1 (3.1)	7月 101.5 (0.9)	

*工業生産指数・在庫指数は2015年平均=100、消費者物価指数は2015年平均=100。*工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
	晴れ	晴れ時々曇り	薄曇り	曇り	小雨	雨